



[発行所]

中友会

港区西新橋1-22-13
全日本中学校長会館202号室
東京都中学校長会事務局内
TEL 03-3504-8705
FAX 03-3504-8706

会則第2条

● 親 睦
● 互 助
● 生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>


自分らしく生きる

中友会副会長 一坂 倭子

今年度の中友会総会において副会長の重任を拝命いたしました。宇津木会長のもと、これからの会の発展にお役に立てるように努力してまいります。よろしくお願いたします。

「社会の変化は速く、大きい。それに応じた学級経営を考え、実践しなければならぬ」三十年以上も前に管理職を目指す研修会で叩き込まれたことです。私は平成10年頃、現役でしたが、平成30年の今の社会規範、思考の変容を考えることは出来ませんでした。大きな災害や困難を経ての変容、世界からの進んだ情報や機器を得て日本の社会生活が大きく様変わりし、これからも変化の範囲を更に広げようとしています。

東京オリンピック・パラリンピックを二年後に控えて、スポーツ指導の在り方が各種目で問われています。大阪の高校バスケット部の部長が命をかけて訴えた頃から社会の関心を強くしてきました。（以前もあったことですが、すぐに忘れられて）その後女子柔道界で、レスリング女子で、大

学のアメフト部、高校のボクシング判定等多くの声が上がりました。大人たちの時代の変化の受け取り方の鈍さと、部活動だけではなく、一流選手の選手生命、競技大会のすべてをかけて訴える決心の強さを思うといたたまれなくなりました。

部活動では試合に負けたからと長時間走らせたり、根性を鍛えるというパワハラの行為を繰り返したり、理不尽な指示で生徒の人格を見下ろし、やがてブラック部活という言葉まで出てきました。五十年前の東京五輪で活躍した「東洋の魔女」を育てた鬼の監督は時の英雄でした。しかしそれは五十年前の英雄でした。

指導力の不足から学校で体罰事故が起こると、根絶に苦慮してきました。中友会の会員の皆様の中にも身近で経験された方もあると思います。

これからの指導は、科学的なデータによる指導、ライセンス制の導入、技術だけでなくメンタルな分野の育成、成長期の体力づくり等総合的なチームで関わる必要があります。国レベルのスポーツ

行政から学校、地域クラブ、それらを支える家庭の考え方も問われることだと思えます。物申す親は、手段を選びません。では困ります。

オリンピック・パラリンピックまでに、「後に付いてこい」の指導者ではなく、選手・部員と同じ方向に共に走りコーチとして信頼され、選手や部員を活かせる指導体制に見直されることを願わずにはいられません。

早期に声上がり、改善されたのでしょうか、女子柔道は世界大会で今期快調な結果が出ていました。選手の勇気と努力が報われたことでしょう。

ゆとり世代という奇妙な言葉が若者の世代を表しています。この年代の健全な若者の発想の豊かさ、色彩・音楽・造形・映像等いや若者はデザインからプログラミング・パフォーマンス、3D、4K時代へ。彼等は、自分の得意とする分野で豊かな感性と一途な思いで挑戦し、起業に結び付けています。小中学生の頃からその芽はしっかりと持っています。私にはとても付いてはいけない彼らの日常です。次々に新しい技術開発に臨み、企業に入ってもその中で新事業を立ち上げて、また簡単にそれら乗り越えていく今の社会人達です。人にも依りますが、それなりの生活が可能なら履歴書に書ききれないほどの転職を気にしながらも自分らしく生きる道を逞しく求めています。

その自分らしく生きたいという思いで、理不尽な指導を許さない（もはや指導とは言えない）機運が、上下関係が絶対であったスポーツ界の変革を求めている気がします。